

とばた
福岡県立戸畑高等学校
家庭クラブ

[福岡県 : 活動期間3年]

戸高フードロス削減プロジェクト～もったいないをありがとうに～

学校や地域生活の充実・向上を
目指した全校生徒所属の家庭クラブ

福岡県立戸畑高等学校家庭クラブは、家庭科の授業で学んだ知識や技術を活かし、学校や地域生活の充実・向上を目指した活動に取り組んでいます。全校生徒、職員がいつでも自由に参加できる体制が整っており、無理なく継続できる活動になっています。フードパントリーや子ども食堂などのボランティア活動を行うことで、関心の輪を学校から地域全体に広め、より多くの方々に持続可能な社会について考えてもらうきっかけを提供しています。



研究発表



フードパントリーの様子

生徒たちが自らフードロス削減
プロジェクトチームを立ち上げ

以前は、文化祭でお菓子を作って売ることが家庭クラブの主な活動でした。コロナ禍以降は、従来の活動を見直す中で、フードロスに問題意識を持った生徒たちが「もったいないをありがとうに」プロジェクトを考案し、実践に至りました。フードロス削減活動において実績のあるNPO法人「あそびとまなび研究所」からアドバイスや協力をいただき、文化祭当日にフードパントリーを開設し、余剰食品の無料配布を行いました。また、防災食のアルファ米や地元農家の余剰トマトで作ったトマトカレーなどもフードパントリーにて提供することで、食品ロス削減と同時に防災や地産地消の知識向上も目指しています。



地元のロス食材を使用した
トマトカレー



アルファ米の食べ方紹介

使われなくなった文具や食品を
地域のイベントや子ども食堂で配布

常時開設している文具ドライブや、不定期に開設されるフードドライブでは、家庭で使わなくなった文具や食品を回収し、地域のイベントや子ども食堂で配布しています。活動開始からの3年間で、農家や企業の余剰食品約800kgの消費に加え、生徒や職員の使わなくなった文具と食品約100kgの配布など、ロス削減活動に大きく貢献しています。



子ども食堂ボランティア



校内文具ドライブ



消費・安全局長賞をいただき、ありがとうございました。3年前、コロナ禍を機に始めた活動でしたが、生徒達のアイデアと行動力で、学校、地域を巻き込む大きな活動へととなりました。最初のプロジェクトリーダーは、大学生になり、大学でフードロス削減の活動を広げています。若い世代の食育は、期待以上の広がりがあることを実感しています。今後も、生徒の主体性を大切に、食育活動を続けていきたいと思っています。

家庭クラブ顧問 加藤 敦子